



関西・大阪21世紀協会 設立40周年記念特集

- ・ 協会設立40周年にあたって
- ・ Osaka Directory (大阪中之島美術館プロジェクト)
- ・ 学校アートプログラム(文化芸術による次世代育成事業)

山田邦雄氏 (ロート製薬株式会社代表取締役会長)
トップインタビュー 企業と文化

助成事業紹介

- 🌸 日本万国博覧会記念基金
 (2022年度助成金及び奨学金贈呈式ほか)
- 🌿 アーツサポート関西
 (2021・2022年度助成活動報告)

令和3年度 大阪文化祭賞 受賞者のご紹介

村瀬先生の「ぶらり歴史歩き」大阪・北浜編

イベント報告

- ・ 住吉大社 御田植神事
- ・ 関西北前船研究交流セミナー 高砂

文化による

関西・大阪の活性化と ポストコロナ時代の

新たな取り組み

協会設立40周年に あたって

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
理事長 崎元利樹



関西・大阪21世紀協会は1982年4月に設立されました。今年で設立から40年になります。節目の年にあたり、皆さま方からの長年にわたるご支援に改めて御礼申し上げるとともに、当協会が設立された経緯とこれまでの歴史をご紹介しますながら、これからの抱負を述べたいと思います。

ある夏の日

協会が設立される3年前、1979年のある夏の日、大阪・中之島の「サントリー文化財団」のロビーで、サントリーの当時の佐治敬三社長と70年万博の功労者でもあった作家の堺屋太一氏が交わした会話が始まりでした。

70年万博が終わって10年近くが経ち、この頃の大阪は経済が停滞して地盤沈下に歯止めがかからない状況になって

いました。こうした状況を憂えた堺屋氏は、かねてより温めていた一つのアイデアを佐治社長に告げました。4年後に控えていた「大阪築城400年」を機会に大きなイベントを開催して大阪を活性化したらどうだろうかという提案でした。これを聞いた佐治社長は大賛成でした。話はどんどん広がって最終的には大阪の各界をあげての動きとなり、「大阪21世紀計画」が策定され、1983年秋の「大阪築城400年まつり」と「御堂筋パレード」につながりました。こうした一連の取り組みの推進母



佐治敬三 第3代会長
(1993.3~1999.11)



皇太子明仁親王殿下(現上皇陛下)と美智子妃殿下(現上皇后陛下)ご臨席のもと、松下幸之助会長(右端)が大阪21世紀計画のスタートを宣言(1983年10月8日/大阪城ホール)



堺屋太一氏(1979年当時)

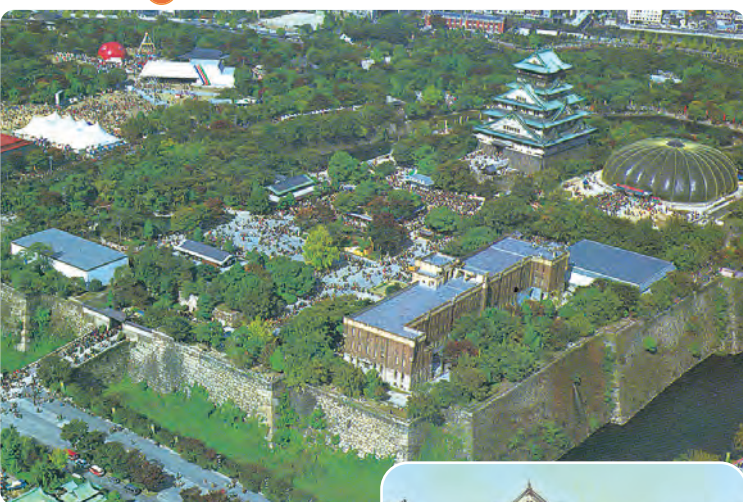


大阪21世紀計画開幕式(1983年10月8日/大阪城ホール)

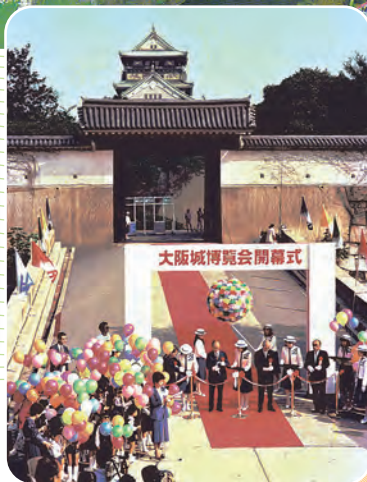
体として設立されたのが「大阪21世紀協会」です。初代会長には、「経営の神様」といわれた松下幸之助氏が就任したほか、当時の大阪の各界を代表する方々が役員や企画委員に名前を連ね、まさにオール大阪での体制となりました(第3代会長には佐治敬三氏が就任)。

以来、「関西・大阪21世紀協会」(2012年に「大阪21世紀協会」から改組)は、これまで4次にわたるグランドデザインを掲げて文化による大阪の活性化(文化立都)に取り組んでまいりました。その基本的な考えは、古代からの深い歴史を持つ大阪では、経済だけでなく文化に根差した都市としての発展が可能であり、「経済と文化を両輪として大阪の活性化を進める」というものです。

● 大阪城博覧会(1983年10月1日~11月30日/大阪城公園)



● 松下幸之助 初代会長
(1982.4~1985.1)



● 時代に応じたグランドデザインを策定

果たしてきた役割

「御堂筋パレード」は、大阪府・市からの補助金が財政再建のために支出困難となり2007年で終わりましたが、多いときには海外からも含めて1万人がパレードに参加し120万人余りの観客で賑わいました。25年間の蓄積は大阪の文化の底上げにつながりました。

大阪に「水の都」としての姿を取り戻した「水都大阪」の取り組みも大きな成果をあげました。「水の都再生」は、かねてから大阪の課題といわれていましたが、21世紀を迎えた2003年、当協会は、この年に策定した第3次グランドデザインで「水都大阪」再生運動の指針となる提言を打ち出し、他の組



● 第20回御堂筋パレードと「水の都再生」をテーマにした当協会フロート
(2002年10月13日)



● 水辺に親しむライフスタイルの気運醸成に向け、さまざまな社会実験を行った。
(上:天満橋お花見水上カフェ/2007年4月、下:水上音楽パレード/2009年10月・大川八軒家浜周辺にて)



織や団体等とも連携して運動を牽引しました。その結果、運動は大きな広がりとなり、汚れていた岸辺は散策を楽しめるような景色に変わり、周辺には高層マンションが建ち並ぶなど大きな経済効果も生まれました。

このほか、アーティストの作品の発表機会の創出や大阪の食文化の多面的な情報発信など、これまで行ってきたさまざまな事業は大阪の文化の発展・振興に意義深いものだったと自負しています。

組織の変遷と事業の承継

40年の歴史の中では、事業や組織のありようが変わることもありました。「御堂筋パレード」が終了した時期には、大阪府・市から当協会への職員の出向も終了して組織が小ぶりになりましたが、協会は事業の重点をイベント実施からムーブメント醸成に変えて運営もコンパクトに切り替え、賛助会員の皆さまをはじめ経済界や市民の皆さまの支援に支えられて引き続き「文化立都」の取り組みを進めてまいりました。

また、ここ10年間では、新たな事業の承継などが相次ぎました。2013年には財団法人 上方文化芸能協会から事業を引き継ぎました。長年培われてきた伝統芸能や伝統行事は大阪の歴史的な財産であり、これからもさまざまな形で支援を続けていこうと思います。

2014年には独立行政法人 日本万国博覧会記念機構から「日本万国博覧会記念基金事業」を承継しました。この事

業は、70年万博の理念に沿った国際交流事業などに助成を行うもので、これまでに世界中で、およそ4,700件、金額にして194億円の助成をしてきました。70年万博の誇るべきレガシーだと思います。

同じ2014年には、一般社団法人 関西経済同友会の提言を受けて「アーツサポート関西」を立ち上げ、アーティストへの支援を行う助成事業を開始しました。広く市民や企業の皆さまから寄付を募ってアーティストの皆さんに助成をするものです。これまでに210件余り、およそ1億円の助成を行いました。

40年の時の流れの中で、組織としてはスリムになった一方、活動の場は一段と広がっています。

40周年からの新たな取り組み

40年の節目となる2022年からは、これまで以上に次世代に向けた人材育成に取り組んでいきたいと思っています。

具体的には、2022年2月に開館した大阪中之島美術館と協力して、若手アーティストの登竜門的な活躍の場となる展覧会「Osaka Directory(おおさか ディレクトリ)」や、小学生にアーティストと触れ合いながらの作品作りを通して豊かな感性や創造力を育ててもらおう「学校アートプログラム」を始めました。単なる単年度の事業としてではなく、40周年を記念してスタートさせる新たな継続事業として位置付けています。

また、これまで以上に皆さまからのご支援をお願いするため「HEART & ART(ハート&アート)」と銘打った寄付の募集を進



● アートストリーム(2002～2019年)
関西を拠点に活動するアーティストに発表と飛躍の機会を提供



● インターナショナル和食フォーラム(2017、2020年)
SDGsのすべてのゴールに深く関わる「食」をテーマに、日本の伝統文化である和食の魅力や現状を発信



● アーツサポート関西の立ち上げにあたり開催された「チャリティ・ファンディング・パーティー」には、財界人や文化人、マスコミなど総勢1,650名が参加(2014年4月1日)



● 季刊誌『やそしま』を発行
(上方文化芸能運営委員会)



● 今宮神社「十日戎」の奉納行事「宝恵駕籠行列」に協力(上方文化芸能運営委員会)

めています。新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限の影響で基礎体力が奪われたアーティストの皆さんを支えて行くというものです。支援先を自分で選べるクラウドファンディング型の寄付もできるようになりました。関西・大阪から大きく羽ばたくアーティストの応援にご協力いただければ幸いです。

こうした事業に加えて、各種の文化活動に対する後援や、各種団体との連携・橋渡しをする結節機能の推進なども合わせて、さまざまな取り組みを通して関西・大阪の文化の発展・振興に寄与したいと思っています。

2022年は、関西・大阪21世紀協会の第5次グランドデザインスタートの年でもあります。協会設立以来、数次にわたって掲げてきたグランドデザインは2017年からの第4次が2021年で期間満了となり、新たなグランドデザインを策定しました。第5次グランドデザインでは、コロナ禍によって生み出された新たな動きを、今後の社会にどう反映させていくのかという課題を提起したほか、2025年の大阪・関西万博を行動計画の重要な柱として位置付けています。万博は、関西・大阪の魅力の世界に向けて発信するまたとない機会であり、70年万博のレガシーを引き継ぐ者として、25年万博にも寄与す

べき役割があると思っています。70年万博のテーマ「人類の進歩と調和」には、人類の進歩が、これまでさまざまな不調和を招いてきた歴史を振り返り、その



● タブレットを使って映像作品を制作(学校アートプログラム)

反省の上に立って未来の人類には調和的な進歩を託したいという願いが込められていました。世界各地で分断と対立が拡散する現状を前に、今求められているのは寛容と調和の心ではないでしょうか。長い歴史の中で多様性と調和の精神を培ってきた大阪で再び万博が行われることは、極めて意味のあることだと思います。関西・大阪21世紀協会は、さまざまな機会を通して多様性と調和の精神を発信すべく取り組んでまいります。

今後とも皆さま方からのご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

関西・大阪21世紀協会の歩み

第1次 大阪21世紀計画 グランドデザインの基軸	1982～1991	1982 大阪21世紀協会 設立 1983 大阪築城400年まつり、御堂筋パレード 1990 国際花と緑の博覧会
第2次 大阪21世紀計画 新グランドデザイン	1992～2002	1994 関西国際空港開港 1995 阪神・淡路大震災発生
第3次 大阪21世紀計画 グランドデザイン	2003～2016	2008 御堂筋パレード中止 (2007年で終了) 2009 大阪府・市からの職員出向終了 2009 水都大阪シンボルイベント 2012 公益法人認定・名称変更 2013 上方文化芸能協会事業承継 2014 日本万国博覧会記念基金事業承継 2014 アーツサポート関西 創設
第4次 大阪21世紀計画 グランドデザイン	2017～2021	2017 食博覧会大阪 2020 東京オリンピック・パラリンピック 延期 2021 東京オリンピック・パラリンピック 開催 2021 ワールドマスターズゲームズ関西 中止
第5次 大阪21世紀計画 グランドデザイン	2022～2026	2022 協会設立40周年 2022 大阪中之島美術館開館 2025 大阪・関西万国博覧会 2025 食博覧会大阪 2027 ワールドマスターズゲームズ関西

『第5次グランドデザイン』は、
 関西・大阪21世紀協会のホームページに掲載しています。
https://www.osaka21.or.jp/about/principle_5th_gd.html



設立40周年に寄せて

関西・大阪21世紀協会は、これまでさまざまな分野から多くの方々のご理解・ご協力を得て活動してまいりました。設立40周年にあたり、当協会への温かいご祝辞や貴重なご意見をお寄せいただきました。(掲載は50音順)



桐竹勘十郎氏

文楽人形遣い(人間国宝)

一般社団法人人形浄瑠璃文楽座 代表理事

此の度の関西・大阪21世紀協会設立40周年を心よりお喜び申し上げます。私ども人形浄瑠璃文楽座も、協会の活動を通じて、これまで様々なご支援を頂き、若い人達への伝統芸能の普及に多大なご尽力を頂いております。「文楽座」は本年、命名150年目を迎えました。これは「文楽」という名称が初めて劇場の名として使われて150年目で、元祖 竹本義太夫が興した「竹本座」からの芸の系譜は1684年当時から今に続いております。この長い年月の間には、幾多の困難に遭い、その度に多くの人達の助けを受けながら芸の系譜を守って参りました。国の豊かさは経済の力が勝っているだけでは完成しません。我が国の素晴らしい宝物である文化を守り、そして育てる事が豊かな国には不可欠です。その時代時代の人々にサポートされて、途絶えなく続く日本の文化力の為に、未来に向けての関西・大阪21世紀協会の役目は大きく、私達も更に期待するところであります。



妹背山婦女庭訓 お三輪

(撮影:小川知子)



五嶋みどり氏

ヴァイオリニスト

認定NPO法人ミュージック・シェアリング 理事長

関西・大阪21世紀協会設立40周年、誠にありがとうございます。

私には、渡米するまでの10年の月日が故郷・大阪であり、20歳になって非営利財団を立ち上げてから訪れる大阪は別世界でした。あの鳥飼大橋河川のすすきに、時空を超えて落ちる雪の粉。東京行きの夜行列車の匂い。それが、今は大阪一梅田駅は立体構造になり、次の万博の話がはずんでいるではありませんか。

でも、みどりの波を湛える琵琶湖から流れる淀川が伝える伝統文化、天下の台所と称されたなみはや、日吉丸が天下を治め外国貿易の拠点をより広く構えたこの大阪に、脈々と受け継がれた人間の性は、日本を下支えする私の故郷の人々の中に波打っているに違いありません。関西・大阪で生まれ受け継がれてきた様々な文化を、貴協会は、長年にわたって発掘・発信されて来ました。私の設立したNPOミュージック・シェアリングが今年30周年を迎えられましたのも貴協会の御蔭であることに心からの感謝を述べるとともに、貴協会が先導となり、船頭となり、未永く関西・大阪の繁栄に寄与されますことを確信し、祝辞とさせていただきます。





©Peter Rigaud c/o Shotview Artists

佐渡 裕氏

指揮者

兵庫県立芸術文化センター芸術監督／トーンキーンストラ管弦楽団音楽監督

このたび「関西・大阪21世紀協会」が40周年を迎えられたこと誠にありがとうございます。京都の公立学校で今日の基礎となる全ての音楽教育を受けた

私は、9歳で大阪万博を経験して「人類の進歩と調和」を夢見て心を震わせ、フェスティバルホールに来日する海外の著名演奏家に憧れ、上方落語に代表される芸能にもどっぷり浸かって青春を過ごしました。

協会が大阪万博の意志を引き継ぎ、記念基金を基に国内外の文化育成助成事業に尽力され、2025年には再び「大阪・関西万博」を通じて関西と大阪の魅力を世界に発信されていくこと、万博アンバサダーを拝命した私としては大変心強く感じています。

代表発起人を務めさせていただいた＜アーツサポート関西＞事業は、企業と個人の熱い思いを、文化を通じて若い演奏家や新しい創作のエネルギーに直接伝え、支援と交流の循環を生み出していく非常に関西らしい仕組みとして、素晴らしい成果を上げておられます。これからも関西らしさ、大阪らしさを世界に発信し続け、文化の力で市民や企業にも元気を与えるその架け橋としてますます協会が発展されるよう期待いたします。



©Takashi Iijima



寺田千代乃氏

アート引越センター株式会社 名誉会長

貴協会が、40周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。この40年は、大阪、関西そして日本にとって、

バブルとその崩壊後の失われたと云ってよい時代でした。貴協会も、時代の波に翻弄され、政治的、経済的な影響を大きく受け、時には存立の危機ともいえる時期もあったと思います。ただ、大阪・関西の文化の火を消してはいけない、大阪・関西という地域のブランドを何とか向上させていこうという熱い想いを持ったたくさんの方々の支援の下で、40周年を迎えられたことをうれしく思います。

大阪、関西には、大きな文化的ポテンシャルがあることはご存じのとおりですが、文化、アートは発表の場があってこそ人々に広がり、演者やアーティスト達が育ちます。私自身が関わった、アーツサポート関西の中の上落語という分野では、発表の場の少ない若手噺家がグランプリを競うことで切磋琢磨する姿を拝見し、応援してよかったと心から思っています。

これからも、大阪、関西の文化立都の推進役として協会が中心的な役割を果たしてくれることを、そして、それを皆が民の力で支えて行ってくれることを期待しています。



桂文枝さん(当時上落語協会会長)と上方若手噺家グランプリ表彰式にて

アーティストが育つ 魅力ある大阪に

大阪中之島美術館 × 関西・大阪21世紀協会 共同企画

Osaka Directory

おおさか ディレクトリ



大阪中之島美術館

関西・大阪21世紀協会は、設立40周年記念事業の一環として、大阪中之島美術館との共同企画「Osaka Directory」を今年度3期にわたり開催します。関西・大阪ゆかりの若手アーティストの作品を個展形式で紹介するプロジェクトで、同館での展覧会と併せ、この機会に新進気鋭のアーティストが放つ独創的な世界観とパワーをお楽しみください。



「Osaka Directory 1」
赤鹿麻耶さんの展覧会
(2022年8月6日～9月11日)

若手作家に発表の場を

大阪には、関西圏の美術・芸術大学や写真専門学校などを卒業して活躍を志す、若いアーティストがたくさんいます。しかし、作品を発表する機会も限られていることから、やむなく大阪を離れてしまう作家も少なくありません。

当協会は、実力のある若手アーティストの作品を今年オープンした大阪中之島美術館で紹介し、大阪におけるアートシーンの活性化につなげるとともに、作家たちが国内外へ大きく飛躍するきっかけになればと考えています。さらに、本企画を継続的に行うことで、若手アーティストの目標や登竜門的存在となり、大阪が「アーティストが育ち、活躍する都市」として強く印象付けられることを目指しています。また、2025年大阪・関西万博に向けた取り組みとして、万博のテーマの一つである「いのちを高める」を体現する場とも考えています。

現代アーティストの「名鑑」

プロジェクト名の「Directory (ディレクトリ)」は、英語で「名鑑」、IT用語ではデータを保存するフォルダを意味します。こうした展覧会を重ねることで、関西ゆかりの「アーティスト名鑑」になればとの思いが込められています。

Osaka Directoryでは、大阪中之島美術館が近代・現代美術を中心に展示していることから、現代美術とりわけ現在活躍している若い作家の作品や考え方を紹介します。今年度出展の赤鹿麻耶さん、貴志真生也さん、遠藤薫さんは、若手ながら個展・グループ展など展覧会の出展歴もあり、今後ますますの活躍が期待され、選ばれました。会場の多目的スペースはインスタレーション作品の展示に適しており、アーティストた



菅谷富夫館長(左)と崎元利樹理事長(右)
(2022年6月15日・記者発表にて)

ちの特徴を生かせる点も考慮されました。

大阪の美術館として

今年6月15日に同館で開催前の記者発表があり、大阪中之島美術館の菅谷富夫館長は、「大阪の美術館として地域の若い作家の発表の場を作るのは私たちの使命でもあり、こうした取り組みを外部の団体と連携してやっていくのが当館の特徴。発表の場があることで大阪に住む魅力を感じてもらい、大阪の魅力が増すことにつながればいい」と語りました。

また、当協会の崎元利樹理事長は、「大阪の人は昔から地元に対する愛着や誇りがあり、豊かな文化を育んできた。しかし、大阪の芸術活動を取り巻く現状は十分とはいえない。Osaka Directoryを大阪のアート界に大きなうねりを起こすきっかけにするとともに、ここから、才能ある多くの若い作家が世界に羽ばたいて行ってほしい」と期待を寄せました。

Osaka Directory

第1期 赤鹿 麻耶 / 2022年8月6日(土)～9月11日(日)

第2期 貴志 真生也 / 2022年11月23日(水・祝)～12月25日(日)

第3期 遠藤 薫 / 2023年1月20日(金)～2月26日(日)

会場 大阪中之島美術館 2階 多目的スペース (入場無料/ただしOsaka Directory以外は有料、月曜休館)

主催 大阪中之島美術館、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

協賛 サントリーホールディングス株式会社、ロート製薬株式会社、大和証券株式会社、西日本電信電話株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社丹青社

第1期 2022年8月6日(土)～9月11日(日)



あかしか まや
赤鹿 麻耶

日々のときめきを写真で描く

「写真を撮り始めて10年以上、日々の小さな興味やときめきの中から、自分が見てみたい景色を写真で描きたいという思いで続けてきました。私にとって写真

は、それを展示することで場づくりをしたり、人とのコミュニケーションのきっかけにする素材に近い感覚があります。写真作品は壁に貼り付けて展示するというのが一般的ですが、私はこれまで空き地や銭湯などで展覧会をしてきた経験もあり、今回も多目的スペースという壁のない公共の場で、自分でイメージした空間づくりや実験的な展

示を楽しんでいます。来場者には、ふらっと立ち寄って「ああ今日は良い体験ができたな」と思ってもらえれば嬉しいです」

プロフィール

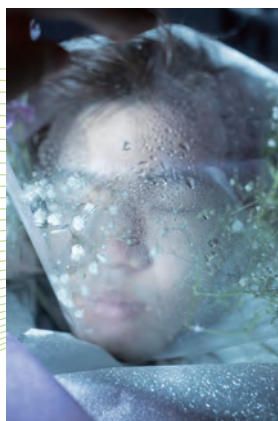
1985年大阪府生まれ。2008年関西大学卒業、2010年ビジュアルアーツ大阪写真学科卒業。2011年作品《風を食べる》で第34回写真新世紀グランプリ受賞。大阪を拠点に海外を含む各地で個展、グループ展を開催。夢について語られた言葉、写真、絵や音楽など多様なイメージを共感的に行き来しながら、現実とファンタジーが混交する独自の物語世界を紡ぐ。主な展覧会に「あしたのひかり 日本の新進作家vol.17」(東京都写真美術館 / 東京・2020年)、「赤鹿麻耶写真展『ときめきのテレパシー』」(キャノンギャラリー / 東京・2021年)などがある。



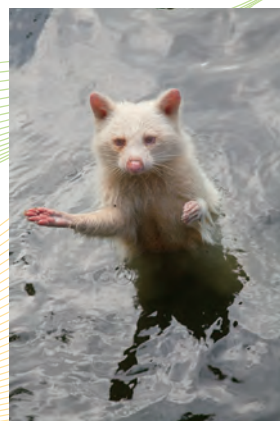
《見えてないとおもった?》2021年



《人間以外》2021年



《花に触れないでください》2020年



《理解書店の店主 M》2017年

旅先での気づきを作品に昇華

展覧会では、多目的スペースに背の高い白い箱を置いて迷路のような空間を作り、そこに縦180cm×横120cmの大きな写真作品15点が展示されました。「一枚一枚に忘れられないエピソードがあり、それを数年にわたって考えている」という赤鹿さんは、旅先で感じたことを日本に帰って作品に昇華させることが多くあります。例えば《見えてないとおもった?》(2021年) (前掲左端)は、台湾で鳥の背後に近づいて撮影した瞬間、その鳥が撮影されているのを知っていたかのように赤鹿さんめがけて飛んできた体験から、それが鳥ではなく果物であれ何であれ、撮影者は被写体から見られているのではないかという気づきから生まれたもの。8月6日のアーティスト・トークでは、そうした数々のエピソードを交え、一枚一枚の作品に込めた思いが語られました。



作品解説をする赤鹿麻耶さん (2022年8月6日)

第2期 2022年11月23日(水・祝)～12月25日(日)



貴志 真生也 多様性を発見する機会に

「美術作品にはあまり使用されないような素材を使ったり、組み合わせたりして、今までに見たことのない景色を作りたいと思っています。そして観ていただいた人に、刺激や好奇心を与えるきっかけになればいいですね。私の展示期間中、美術館では『ロートレックとミュシャ』展も開催しています。私とミュシャの作風は全く違いますが、同じ美術というフィールドで、同じ美術家だという多様性を発見してもらえれば嬉しいです。そのとき私の作品を見て困惑したり、あるいはネガティブな気持ちを持ったりしても、それによって生きているという実感を得てもらえればと思っています」

プロフィール

1986年大阪府生まれ。2009年京都市立芸術大学彫刻専攻卒業。看板、建物、社会といった、人によってつくられた環境をモチーフとし、その意味を問い直す作品を制作している。発泡スチロール、角材、ブルーシートなどの工業資材を見立てによって作品とする。素材は規格そのままに、作家の手の痕跡を残さないよう意識され、不要な意味を排除したシンプルな形態へと落とし込まれている。主な展覧会に個展「リトルキャッスル」(児玉画廊/東京・2009年)、「バクロニム」(児玉画廊/東京・2010年)、「鼻向け」(Antenna Art Space/京都・2010年)、「またのぞき」(神戸アートビレッジセンター/兵庫・2014年)などがある。2011年にはメゾン・エルメスのウィンドウディスプレイを手がけた。



「ショーケース」2019年 展示風景
Courtesy of the artist and Kodama Gallery

第3期 2023年1月20日(金)～2月26日(日)



遠藤 薫 無意識の形に徹する

「工芸や民芸のクラフトに興味があり、特にその土地の歴史や生活の中で無意識に作られた形が気になっています。例えば、終戦直後の沖縄で米軍が捨てたコーラ瓶を溶かして再生利用する際、自然に入った気泡が原点となって生まれた「琉球泡ガラス」のようなものです。そのため作品を制作するときは、自分というものをできるだけ無くして、「たまたまこんな形になった」という自然さに徹しています。ご覧いただく方には、そうした行為そのものを目撃してもらえればと思っています。今回の展覧会では、沖縄で作っている舟を持ってこようかと考えています」



「閃光と落下傘」2020年 展示風景
撮影:デルフィン・パロディ
提供:青森公立大学 国際芸術センター青森 (ACAC)

プロフィール

1989年大阪府生まれ。2013年沖縄県立芸術大学工芸専攻染織科卒業。2016年志村ふくみ(絨織、重要無形文化財保持者)主宰アリスシムラ卒業。沖縄や東北をはじめ国内外で、その地に根ざした工芸と歴史、生活と密接な関係にある政治の関係性を紐解き、主に染織技法を用いて制作発表を続けている。主に雑巾や落下傘、船の帆などを制作し、「使う」ことで布の生と人々の生を自身の身体を用いてパフォーマンスにトレスし、工芸の本質を拡張することを制作の核とする。近年の主な展示に「第13回 shiseido art egg」(資生堂ギャラリー/東京・2019年)、「Welcome, Stranger, to this Place」(東京藝術大学大学美術館/東京・2021年)、「琉球の横顔一描かれた『私』からの出発」(沖縄県立博物館・美術館/沖縄・2021年)などがある。「第13回 shiseido art egg」ではart egg賞を受賞。

大阪中之島美術館

大阪市北区中之島4-3-1 TEL.06-6479-0550

開館時間 10:00～17:00(ただし10月2日までは18:00閉館)

入場は閉館30分前まで 月曜休館(祝日の場合は翌平日)

アクセス

・京阪中之島線渡辺橋駅(2番出口)より徒歩約5分

・Osaka Metro四つ橋線肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分

・JR大阪環状線福島駅/東西線新福島駅(2番出口)より徒歩約10分

・阪神福島駅より徒歩約10分

学校アートプログラム 文化芸術による次世代育成事業

アーティストを学校に派遣して、継続的な体験授業を行う「学校アートプログラム」。関西・大阪21世紀協会が2021年度から取り組むこの事業は、子どもたちが仲間とともに創造する体験を通して人間力や思考力などを育むきっかけづくりを目的とし、大阪府泉南市・阪南市・岬町と各教育

委員会と連携協定を締結して実施しています。当誌前号では、泉南市の実施小学校2校の校長に、プログラムを受けた子どもたちの変化や教師の方々の思いなどを伺いました。本号では、阪南市と岬町での実施のようすや評価委員による事業全体の評価結果などをご報告いたします。

阪南市立下荘小学校 6年生

教室に潜む形を使ったスタンドガラス模様作り
講師：野原 万理絵 (画家)

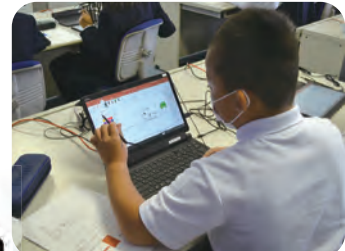
教室にあるもの（ランドセル、鉛筆、床のシミなど）をタブレット端末で撮影し、その形を使って、スタンドガラスの模様を作るプログラムです。クラス全員で集めた形をつなぎ合わせ、ひとつの大きなスタンドガラスの壁面に仕上げました。



岬町立深日小学校 5年生

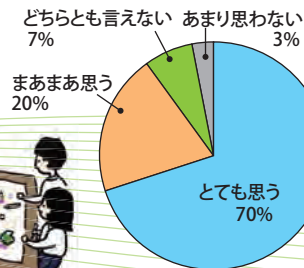
水平線から生まれるアニメーション作り (タブレット使用)
講師：林 勇気 (映像作家)

1本の線から絵を展開させるアニメーションを一人一人が作り、その後、グループに分かれてどのようなストーリーにすればよいかを話し合い、それをつなぎ合わせて一つの作品に仕上げました。発表時には、身の周りにはある音の鳴るものを使って、即興で効果音をつけました。

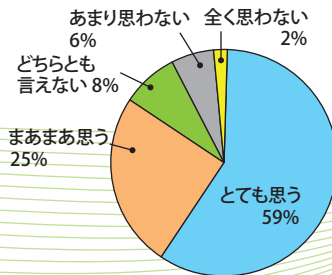


アンケート結果 (全体)

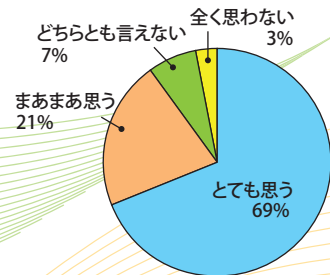
「みんなが表現するのを見たり、聞いたりすることが楽しかった」



「みんなと力を合わせて取り組むことができて楽しかった」



「またやってみようと思った」



アンケートより抜粋

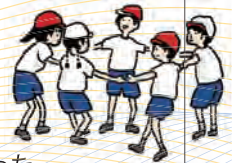
参加児童の感想

- みんなと協力して取り組みました。(実施する)前までは自分の感じた事などを表現するのは苦手だったけれど、この時間では感じた事を表現するのが楽しかったです。
- 今回のワークショップを体験して、図工が苦手だったけど、少しだけ得意になった気がした。
- みんなの作った作品を見て、たくさんの工夫を見ることができたのでとても楽しかったし、今まで体験し

たことのないことを体験できたので
たくさんの発見ができたと思いました。

教員の感想

- どの作品も評価してもらえたのがよかった。
- おとなしい児童の意外な一面が見られた。
- アーティストの児童との接し方に触れることによって、教員自身も新しい発見があった。
- 自らが新しい芸術表現を知るきっかけになった。



評価委員評価結果

1. 児童の成長に繋がるプログラムであるか？

- どのプログラムも他者と関わりが持てるものになっている。協働で制作し、発表の機会も設けられたことで、他者と共感できる場が作られていた。
- アーティストと出会うことで、日常のさまざまなことをよく観察して多面的に捉えられる一助となる。
- 普段と違う授業を体験することが、表現することの楽しさを味わわせ、創造することへの興味につながっている。

2. 提供プログラムとしての評価

- 授業で普段しないことを経験することで、友だちの違う一面や良さに気づけている。
- アーティスト、担任教員、スタッフとみんなが協働して肯定的に進めていることで、蚊帳の外になる子どもがおらず、自己肯定感や他者理解につながっている。
- アンケートの自由記述で多く感想を書いているのは珍しく、プログラムへの満足感がうかがえる。



ロート製薬株式会社
代表取締役会長

やまだくにお
山田邦雄氏

「人がやらないことをやる」 社会貢献活動にも生きる創業精神

創業123年、大阪の老舗製薬会社・ロート製薬は、「Vロート」で知られる目薬以外にも、スキンケア商品やサプリメント、食、再生医療など、さまざまな事業を展開している。そこには創業以来の「人がやらないことをやる」精神が流れており、同社が行う数々の社会貢献にも受け継がれている。そうした活動への思いについて、当協会理事長の崎元利樹が伺った。

日々の健康と美容

崎元 御社は目薬でよく知られていますが、それ以外にもさまざまな事業を展開しておられます。最近は御社の化粧品のお名前をよく耳にします。まずは、そうした事業にかける思いについてお聞かせください。

山田 創業者は私の曾祖父(山田安民氏:1868-1943)で、1899年に胃腸薬からスタートして10年後に点眼薬「ロート目薬」を発売しました。昔は目薬瓶と点眼器が別々でしたが、事業を引き継いだ祖父(山田輝郎氏:1894-1982)が一体型の「滴下式両口点眼瓶」を日本で初めて開発して大きな注目を集めました。上部のゴムキャップを押すと下の穴から目薬が一滴出るといふものです。そうしたこともあって昔から目薬の会社というイメージが強いかと思います。

近年、当社ではスキンケア商品、妊娠検査薬、さらには食分野や再生医療分野など、日々の健康と美容に貢献すること

を基本方針として挑戦を続けています。

日の当たりにくい研究を支援

崎元 チャレンジングな事業活動の一方で、公益財団法人山田科学振興財団をはじめとする教育・学術振興支援や、サッカーやバスケットボールチームへの支援など、文化・スポーツ面でのさまざまな社会貢献活動にも積極的に取り組まれていますね。

山田 創業者は文化的活動に関心が強く貢献もしました。祖父も事業で成功したのでそれを社会に還元したいという思いから「公益財団法人 山田科学振興財団」を設立しました。また、かつてのような「競泳大国・日本」の再興を願い、私財を投じて「山田スイミングクラブ(1965-1972)」を設立し、優れた水泳選手を育成してオリンピックメダリストも多く輩出しました。当社はこうした思いを受け継ぎ、現在、ガンバ大阪(サッカー)やバンビシャス奈良(バスケットボール)といったスポーツチームの活動を支援しています。

崎元 山田科学振興財団は、自然科学の中でもとりわけ基礎研究分野への支援に力を入れておられると伺いました。

山田 それユニークなところですよ。当財団は学術研究の成果を期待して助成するのではなく、どちらかといえば日の当たりにくい基礎研究分野を支援し、今年で45周年を迎えます。また、父が社長をしていた1995年、当社は日本の眼科研究の発展に寄与することを目的として、優れた研究を行っている若手の眼科研究者をたたえる「ロートアワード」を創設しました。これも研究活動を純粋に支援するもので、今や日本の眼科分野では権威のある賞といわれています。

製薬企業が農業を支援する意義

崎元 御社では農業分野での社会貢献にも取り組まれていると伺いましたが、それはどのような活動でしょうか。

山田 2013年にアグリ・ファーム事業部を立ち上げ、農・畜産物の生産や加工業と併せ、起業や担い手のサポートによる地域振興にも寄与する事業として取り組んでいます。「健康とは何か」を突き詰めて考えれば、病気になること、つまり「薬に頼らず、薬が必要でなくなること」です。そこで「薬に頼らない製薬会社になりたい」との思いで、健康づくりの原点である「食」に着目し、この分野にチャレンジしました。例えば沖縄県石垣島にある当社のグループ企業「有限会社やえやまファーム」では、化学肥料や化学農薬を使わない有機栽培のパイナップルを育て、それをジュースにした後の搾りかすを使った飼料で豚を育て、その糞尿から堆肥を作って、またパイナップルを育てるという循環型農業に取り組んでいます。不可能といわれていたパイナップルの有機栽培を実現し、その餌で育った豚は“南国の豚”を意味する「南ぬ豚(ばいぬぶた)」というブランドで出荷されています。



南ぬ豚と有機栽培で作られたパイナップルのジュース(やえやまファーム)



崎元 沖縄県以外にも各地で地域連携の取り組みをされていますね。

山田 当社の創業地である奈良県宇陀市では、子会社の「株式会社はじまり屋」がJAS有

機認定を受けて野菜を育て、その収穫・販売までを行っています。当社は、2015年には奈良県と地域の活性化に取り組む包括協定を結びました。こうした事業を通して農業人材の育成や



奈良県宇陀市での農業(はじまり屋)

地域産業の活性化に貢献したいと思っています。また、宇陀市は日本の薬草の発祥地でもあり、当地でも一度薬草の栽培や研究に関する産業振興を図ろうとしています。これらはまだ実験的な試みではありますが、食料自給が厳しくなっていくであろう将来のことも考え、当社なりの貢献を目指しています。当社のお客様は日本全国津々浦々におられますし、そのための営業ネットワークもあります。そこで、単に商品を提供するだけではなく、ご縁のあったところで地元と連携した数々の取り組みを行っています。

コロナ禍での需要

崎元 飲食業やホテル業などでは、コロナ禍による甚大な影響を受けています。御社の事業や社会貢献活動には、どのような影響がおりでしょうか。

山田 長引くマスク生活でリップクリームをあまり使わなくなったとか、新型コロナの感染拡大に伴って百貨店などが営業時間を短縮し、化粧品事業に影響が出るといったマイナス面もあるのですが、スキンケアのニーズはむしろ高まっているように思います。とくに「肌ラボ」シリーズのようなスキンケア商品の売り上げがすごく伸びています。ですからプラスマイナスすれば業績に大きな影響はないといえるでしょう。コロナで打撃を受けている業界に比べると、むしろ恵まれているほうだと思います。

崎元 新しい製品を次々開発されていますね。スキンケアはもちろんですが、目のサプリメントというのも人気です。

山田 若い人からお年寄りまで、日々の生活でパソコンやスマートフォンなどを見つめる時間が増えており、アイケアの需要はコロナ禍でも非常に根強いといえます。そこで当社は、点眼薬だけではなく、サプリメントも使って目の疲れを取ることに力を入れています。おかげさまで順調に売り上げを伸ばしています。

再生医療分野に挑戦

山田 当社は製薬企業として、2013年から再生医療事業にも力を入れています。例えば、間葉系幹細胞*を使って肝硬変の進行を少しでも抑え、機能回復にいたるようなもので、2017年から新潟大学との治験(臨床試験)を開始しました。また、当社が主導して医療系ベンチャー企業や大学などと協業し、再生医療に関連する製品開発や製造など、さらに研究を進めているところです。

崎元 大阪・関西は、そうした医療分野での先進性が高いですね。



聞き手 **崎元利樹**

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 理事長

山田 大阪大学を中心に先端医療の研究機関が集積していますし、近い将来、大阪・中之島に「未来医療国際拠点*」ができます。当社はその立ち上げに関与しており、新たな医療拠点での研究に参画する予定です。



新潟大学との治験を開始(2017年)



国内で初めて開発に成功した自動培養装置

- *間葉系幹細胞…骨髄や皮下脂肪の中にある幹細胞。細胞分裂による増殖能が非常に高く、神経や筋肉、脂肪、骨などに分化する「多分化能」を持っている。iPS細胞に比べて、使用に際して安全面の問題も少ないとされる。
- *未来医療国際拠点…再生医療をベースにゲノム医療や人工知能(AI)、IoTなどを活用し、今後の医療技術の進歩に即応した最先端の未来医療の産業化を推進する国際的拠点。一般財団法人未来医療推進機構が運営。

我が道を行く気概

崎元 大阪は、大正時代には大大阪といわれたほど、日本で最も活気のあるまちでした。しかし、やがてその地位は東京にとって代われ、往時に比べて大阪は元気がないといわれるようにもなりました。こうした現状については、どのように見ておられますか。

山田 私は、オープンなイノベーションの気風がある大阪の企業文化が好きでした。良くも悪くもお上^{かみ}に頼らないというか、物事を本音ベースで考えるというか、何事も民間の活力で切り開いていこうとする気概です。それと、あまり群れずにコツコツと我が道を行くのも関西系企業の特徴だと思います。お上の号令に従って業界で足並みを揃えるのではなく、「オタクはオタク、ウチはウチ」と。だからこそイノベーションも生まれやすかった。しかし、そんな気概のある企業がどんどん減ってきているのかもしれない。ある意味、京都の企業のほうが肝が据わっているというか、異端で居続ける存在感がありますね。

大阪の課題は日本の課題

崎元 大阪の企業文化を再認識するということでしょうか。具体的に大阪を活性化させるために、今、どんなことが必要だと

思われますか。

山田 人を育てる長期戦略です。もっと戦略的に予算をつけるなどして、人材と科学技術をきちんと育てるということをするべきだと思います。当社は多くの大学と共同研究していますが、立派な先生方はたくさんいらっしゃいます。どうしても個人の努力だけでは限界があるものです。中国では日本の10倍の予算がついて実験設備なども充実していますよね。これは大阪に限らず日本の課題です。研究者の育成や科学技術の振興に社会のリソースを十分に割けていないことも要因の一つだと感じます。海外なら優秀な人を加速度的に育てて、国家がベンチャーを後押ししています。日本にもそうした国家プログラムはありますが、社会の認識が極めて低いのはもったいないですね。

崎元 人に対する投資ができていないのですよね。

山田 日本全体がそうですし、大阪もそうです。適塾のレガシーを取り戻したいところですね。科学分野での人材を育てることを何より大切にしたいと考えています。また、人材育成は短期に果たせるものではありません。30年後、50年後に託す種まきを今から始めないと。そうした分野にしっかり投資をして、明るい未来を描こうではありませんか。

未来をつくる種まき

崎元 例えばどのような種まきが必要だと思いますか。

山田 時代はすでに、石油に依存する技術からバイオ技術を活用する方向に移っています。当社でも、神戸大学と協働してバイオ技術を用いた新たな産業基盤をつくるプロジェクトを始めました。バイオ技術やデータサイエンス、そして先ほどお話ししました再生医療は未来をつくる上で不可欠な種まきです。

崎元 細胞の力を引き出す再生医療は、2025年大阪・関西万博のテーマとつながります。

山田 大阪・関西万博が、そういう種まきを誘発する機会になればと思います。万博によって誰に影響を与えなくてはならないかという、明らかに若い人たちです。中学生ぐらいの子どもたちに自分たちの未来を想像させ、大いなる期待を抱かせるのです。未来の人を育てるという意味で、バイオテクノロジーやライフサイエンス、データサイエンスの可能性に目覚めさせるのが今回の万博が果たすべき役割だと思います。その影響を受けた若者が将来ベンチャーを起こすことにつながれば、それこそが万博のレガシーといえるでしょう。

崎元 未来に向けた種まきに期待したいと思います。本日はありがとうございました。

山田邦雄氏

1956年大阪府出身。1979年東京大学理学部物理学科卒業、1990年慶應ビジネススクールMBA取得。1980年ロート製薬入社。営業、マーケティング部門などを経て、1992年代表取締役専務、1999年代表取締役社長。2009年より現職。

ロート製薬株式会社

本社:大阪市生野区巽西1-8-1。1899年創業、設立1949年。医薬品・化粧品・機能性食品等の製造販売。資本金65億400万円、売上高1,012億700万円(単体)、1,996億4,600万円(連結)、従業員数1,599名(単体)、6,866名(連結)(2022年3月期現在)

(写真提供:ロート製薬株式会社)

制作協力番組のご案内 (制作:株式会社オペテージ)

村瀬先生の『ぶらり歴史歩き』

大阪・北浜編



村瀬哲史さん



川岸ゆかさん

「なにわの地理博士」と大手予備校・東進ハイスクールの人気講師・村瀬哲史さんの案内で、古地図を手に、大阪のまちの歴史や地理をご紹介します『村瀬先生のぶらり歴史歩き』。好評の「梅田編」「なんば編」に引き続き、現在、当協会のホームページでは「北浜編」「中之島編」「大阪城編」を公開中です。その中から「北浜編〈前編・後編〉」をご紹介します。

どうして「ライオン」なの?...古地図A

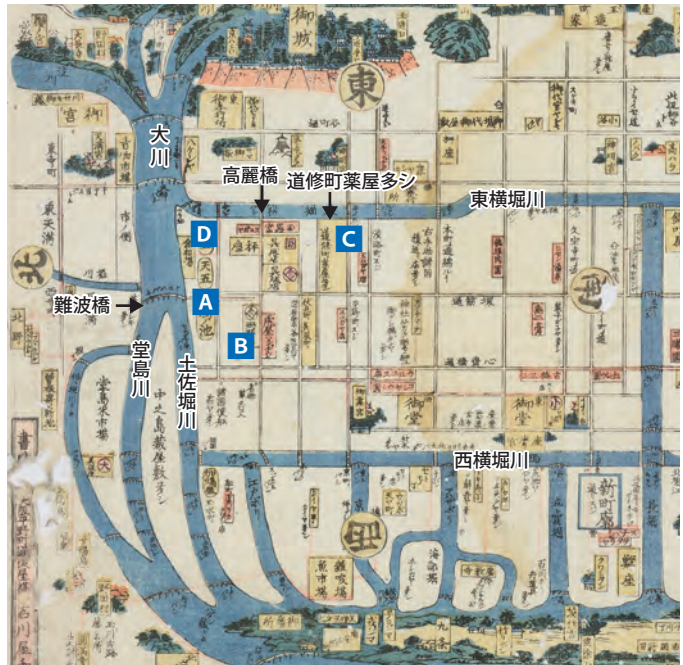
土佐堀川と堂島川の二つの川をまたぐ全長約190mの難波橋(堺筋)。その橋詰にあるライオン像は、大阪が「大大阪」と呼ばれた時代、世界一の観光地といわれたパリにあやかろうと、セーヌ川に架けられた「アレクサンドル3世橋」のライオン像をまねて設置されました。神社の狛犬のように「阿吽」の一对になっています。



難波橋にて



1870~1912年頃の高麗橋 (大阪市立図書館デジタルアーカイブより)



浪華名所案内(江戸末頃) (大阪市立図書館デジタルアーカイブより/部分)

日本で2番目に古い幼稚園...古地図B

明治13(1880)年の開園から140年以上の歴史をもつ大阪市立愛珠幼稚園。ビルの谷間に建つお屋敷のような建物は、重要文化財に指定されています。園内には畳敷きの「お茶室」もあり、ここで園児たちによるお茶会が行われ、日本文化を学ぶ場として利用されています。園庭には重要文化財指定の滑り台もあります。



玄関



内部



園庭

「張り子の虎」で新型コロナ退散を祈願...古地図C

薬のまち・道修町で、日本と中国の医薬の祖神が祀られている少彦名神社。本殿にある「張り子の虎」は、江戸末期の大阪でコレラ(虎狼痢)が流行した際、病名と薬(虎頭殺鬼雄黄圓)に「虎」の字が当てられたことにちなみ、薬とともに疫病退散のお守りとして配られたことに由来します。以来、同社独自のお守りとして広まりました。



少彦名神社



疫病退散のお守り「張り子の虎」

日本の近代化はここから始まった!...古地図D

天保元(1830)年に創業し190年の歴史を持つ老舗料亭・花外楼。ここは明治維新のとき、大久保利通、木戸孝允、板垣退助が立憲政府の樹立など日本の近代化を進める「大阪会議」を行った歴史的な場所です。現在の建物は4代目。伊藤博文直筆の大阪会議の顛末書や、「花外楼」と名付けた木戸孝允による屋号の書などもあります。



初代の花外楼



花外楼(内部)

伊藤博文直筆の大阪会議・顛末書 (お店の予約時に希望すれば閲覧可能)

番組でチェック!

- 高麗橋を基点に諸国への道のりを計算!〈里程元標跡〉前編
- 鉄製の扉をなぜ木製に見せかけたのか?〈芝川ビル〉前編
- 工作に欠かせない「アレ」のメーカー〈旧小西家住宅〉後編
- 福澤諭吉も学んだ大阪大学のルーツ〈適塾〉後編

右記のQRコードを読み込むか、当協会ホームページにアクセスしてご覧ください。
<https://www.osaka21.or.jp/>



村瀬哲史 (むらせ あきふみ) ▶東進ハイスクール 東進衛生予備校 地理講師
「楽しく学ぶ地理」をモットーとした授業で学生に大好評。
一度観ると忘れられない!そんなキャラクターでテレビ・ラジオでも活躍中!

EXPO'70基金 2022年度助成金及び奨学金贈呈式

2022年7月27日／大阪工業大学梅田キャンパス常翔ホール

国内外42団体に総額8,000万円を助成

関西・大阪21世紀協会は、2022年度の万博記念基金助成事業として、国内外から申請された157件の中から42件を採択し、総額8,000万円の助成を決定しました。このうち「複数年度助成事業」には、審査の結果、KHM博物館連盟ウィーン世界博物館（オーストリア）の「1873年ウィーン万国博覧会150周年記念事業：日本とヨーロッパをつなぐ」を採択。日本の伝統文化を研究する外国人留学生（大学院修士課程）を対象とした奨学金給付事業については、東京藝術大学、京都市立芸術大学、大阪大学、早稲田大学から推薦された5名に奨学金が給付されました。

7月27日に贈呈式が行われ、出席していただいた国内20団体の中から、代表として3団体と4名の留学生に崎元利樹理事長から目録が手渡されました。崎元理事長は冒頭の挨拶で、「協会は今後も国際交流活動を支援することに加え、関西・大阪だけでなく日本の文化振興に取り組ん

でいきたい。皆さんにおいては、コロナ禍で活動が難しい中、助成を有効にご活用いただき、有意義な成果を出されるよう願っています」と述べました。

贈呈式の後、2021年度の奨学生・解桐さん（中国）の研究報告と助成2団体の事例発表、2023年度の募集説明会が行われました。



2022年度の申請と採択の内訳

	申請		採択	
国内外合計	157件	4億4,922万円	42件	8,000万円
国外事業者(内数)	(34件)	(1億2,867万円)	(7件)	(1,660万円)

▶2021年度 奨学生の研究成果報告

解桐さん（東京藝術大学大学院 音楽文化学専攻 修士2年）

「日本の尺八製管の伝承」をテーマに、玉井竹仙が開いた日本史上最大の尺八工房「竹仙工房」（1950～1985年頃・大阪府豊中市）と、その弟子の星梵竹が開いた「星梵竹尺八工房」（1981年～・兵庫県丹波篠山市）、独学で製管を学んだ田畑睦郎が開いた田畑尺八工房（1992年～・埼玉県草加市）を研究対象として、尺八の製作方法の変遷や後継者の育成方法などを明らかにする研究を行いました。また、独自の技法で尺八を製作し、尺八教室も開いている田畑尺八工房については、製管方法や後継者の育成など、他の工房との共通点や相違点も探りました。



▶2021年度 助成団体の事例発表

一般社団法人 HLAB（エイチラボ） 学生スタッフ財務責任者 堀田 岳さん（国際基督教大学2年）

HLABは、「WHERE DIVERSITY MEETS LEARNING」（多様性と学びが出会う場所）を理念に、高校生対象のサマースクールを実施しています。ここでは「Peer Mentorship」（仲間との対話）を重視し、高校生たちが専門家や先生からではなく、お互いから学びや刺激を得たり、運営側の大学生や社会人とも寝食を共にしたりする中で、将来やりたいことを主体的に選択できる一助になればと思っています。現在、サマースクールは東京都や宮城県など全国4か所で240名の高校生に提供し、企業や自治体の協賛や後援、EXPO'70基金のような助成団体からの支援を得て運営しています。



一般社団法人 関西伝統芸能女流振興会 代表理事

向平美希（常磐津美佐希）さん

関西伝統芸能女流振興会は、日本の伝統芸能の継承と振興および伝統芸能界における女性の活躍と技芸の向上を目的に活動しています。主に舞台公演を通じて女性の活躍を支援するとともに、ワークショップを企画するなど幅広い世代へ伝統芸能の魅力を紹介しています。2021年度はEXPO'70基金の助成を得て、外国人留学生や外国語を学ぶ学生に向けた鑑賞体験事業を実施しました。関西圏の高校や大学など10校で、三味線、箏、日本舞踊などの体験授業を行うとともに、リモート配信も活用。学生だけでなく先生方にもご好評をいただきました。



日本万国博覧会記念基金事業

世 界各国で助成が活かされています。

過去50年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

< 第3回 >

しょうふうそう

松風荘(アメリカ合衆国 フィラデルフィア)



松風荘は、アメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィアのフェアマウント公園にある日本家屋および日本庭園です。建物は日本からの寄贈で、1954年にニューヨーク近代美術館（MoMA）に2年間展示され、その後にフィラデルフィアのフェアマウント公園内の日本庭園に移設されました。1958年の一般公開以降、日本古来の建築物や庭園を体験する場として、四季折々の催しを実施し来園者を楽しませています。現在、松風荘を管理しているフィラデルフィア日米協会のジュリア・チョフィーニ（Giulia Ciofini）さんに、松風荘についてご紹介いただきました。

万博記念基金では、過去に松風荘の改築や催しの実施に際して助成をしてきました。

▼助成年度	▼助成事業名	▼助成事業者	▼金額
1994年度	書院造り日本家屋「松風荘」の改築	松風荘友の会	135万円
1999年度	松風荘桧皮葺および柿葺の屋根を全面葺替する工事	松風荘友の会	2,000万円
2020年度	ジャパン・フィリー2020：一年間、無数のつながり	フィラデルフィア日米協会	240万円



JAPAN AMERICA SOCIETY
OF GREATER PHILADELPHIA
フィラデルフィア日米協会

日本の家屋と庭園である松風荘は、第二次世界大戦後の両国間の新たな関係を育むため、日本からアメリカ



合衆国へ贈られることとなり、ニューヨーク近代美術館（MoMA）に建築を委託し、MoMAの中庭に展示されました。

MoMAは日本国内で日本建築の調査を実施し、書院造建築、特に17世紀初頭の書院造様式の初期の例である滋賀県大津市の三井寺（園城寺）光浄院を参考にして、日本人建築家の吉村順三氏の設計により松風荘を建築しました。

松風荘は1954年6月20日から2年間にわたって一般公開され、約25万人の来場者を動員し、MoMAのその時期で最も人気のある展示会となりました。閉会后、1958年に松風荘はフィラデルフィアのフェアマウント公園に移設され一般公開されました。

その後、1960年代から70年代にかけて、松風荘は管理が行き届かず、庭園が荒廃した状態に陥りましたが、1982年に史跡を保護するためにボランティアと松風荘の管理人が松風荘友の会を結成し、維持管理をしてきました。2016年以降は、フィラデルフィアと日本との芸術、ビジネス、文化交流を促進する非営利団体であるフィラデルフィア日米協会によって管理されています。

現在の松風荘は、フィラデルフィアで日本古来の建築物を一般の人々に体験してもらう施設として、毎年4万人以上の



来園者にサービスを提供しています。春は桜まつりやこどもの日、夏は七夕やお盆、秋は生け花展、お月見、冬は七五三、お正月といった四季折々のイベントのほかに、お茶の体験、



桜まつり

太鼓のワークショップ、グループツアー、放課後プログラムなど、子ども、家族、大人などさまざまな年代を対象に、日本の伝統や文化を体験するイベントを開催しています。



お盆



茶道体験



放課後プログラム



絵画教室

写真提供：JAPAN AMERICA SOCIETY OF GREATER PHILADELPHIA

2022年度奨学金給付事業

— 日本と外国の架け橋となる人材育成を目指す —

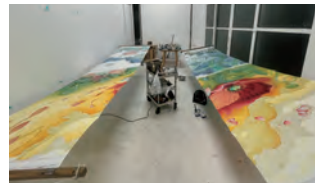
本事業は、日本の伝統文化を研究する外国人留学生(大学院修士課程)を対象に、2021年度からスタートしました。奨学生には、年に2回程度研修の場を設け、日本の伝統文化を学ぶ機会を提供します。また、奨学生同士や当協会との交流を深め、将来、日本と外国の架け橋となる人材の育成に努めています。

2022年度の奨学生



カン チェンウェン

關 正玫さん(台湾) 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 工芸専攻 染織分野
私は、友禅染や臈纈(ろうけつ)染などさまざまな染め技法の研究をしています。ご支援をいただいたことに恥じぬよう、日本と台湾の染め文化を進展させていけるよう頑張ります。



ジョ イツワン

徐 逸文さん(中国) 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 絵画専攻 構想設計
ご支援のおかげで、映画と精神分析の研究活動に全力を注ぐことができています。また、博報堂プロダクツへの就職も決まり、今後は社会人として、創造力を生かして世界を驚かせる作品で日本の広告制作を支えたいと思っています。



リウ ジョウミン

劉 常民さん(中国) 東京藝術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻(保存彫刻)
私は、将来は中国宋代木彫仏像の研究に貢献するため、鎌倉時代後期の東国仏師による宋風の受容性について考察を進めています。奨学金によるご支援がなければ、修了模刻と古美術調査研究が続けられないところでした。心より感謝申し上げます。



チョウ シモウ

張 子萌さん(中国)
大阪大学大学院 人文学研究科 芸術学専攻
奨学生に選考され感謝しています。研究テーマである日本のアニメ映画『君の名は。』のロケ地を訪れるなど、研究に打ち込める環境を得ることができます。



ヒョウ チェンチェン

馮 辰鍼さん(中国)
早稲田大学大学院 文学研究科 人文科学専攻 日本語・日本文学
この度は奨学生にご採択いただき、ありがとうございます。文学と絵画の和漢交流を研究しています。今後も多分野、多言語の日本伝統文化研究に精進し、国際社会へ発信していきます。

助成先の事業紹介

2021年度の助成事業の中から、事業者から寄せられた報告をご紹介します。

アート・インクルージョン 多様性の世界の祭典

事業者：アートはみんなのもの
交付確定額：1,013,000円
実施期間：2022年2月26日～27日
実施場所：リモート開催(兵庫県尼崎市・Casa de Ume)

芸術という立場からすると、障がいのあるなし、民族や国家の違いはありません。活動は人が生きている限り止まりません。コロナ禍によりリモート開催でしたが、2日間にわたり18か国・約140人が参加してシンポジウムを行いました。16の国や地域の事例発表やワークショップには、アジア各国に加え、時差で現地は早朝や真夜中のヨーロッパや北米、南米からの参加もあり地域を超えた関心の高さを実感しました。

大阪発祥の世界を代表するインクルージョンアート「さをり織り」の事例には、コロナ禍の精神的な困難を乗り越えるために活用したものもありました。

イベントの最後には大阪弁の手話を様々な国の参加者に学んでもらい、「ともだち」(中筋博治作詞作曲)をともに歌いました。

万博基金は資金協力だけでなく、1970年の万博の理念

をあらためて読み直すことで、わたくしどもの活動の原点を見つめなおし、各国の仲間の共感を呼び覚ましてくれたと実感しています。



さをりファッションショー



大阪弁手話による合唱

沖縄返還50周年記念事業 『沖縄古典舞踊と音楽』米国5都市ツアー

事業者：Japan Society, Inc.
 交付確定額：2,000,000円
 実施期間：2022年3月14日～31日
 実施場所：ニューヨーク市 ジャパン・ソサエティー、
 ワシントンDC ケネディセンターほか

米国からの沖縄返還50周年を記念し「古典舞踊」や「雑踊」などからなる『琉球舞踊』と、琉球の民話などを題材に、舞踊と音楽により構成される『組踊』、琉球古典芸能の伝統を受けつつ近代創作された『喜歌劇』などの公演を、国立劇場おきなわ芸術監督(当時)の嘉数道彦氏の監修・構成のもと、ニューヨークやシカゴを含む米国5都市にて開催しました。また、ワークショップやレクチャーデモなどの教育プログラムも各都市で実施、観客や参加者など約1,800名を動員しました。

米国では「基地の街」として知られる沖縄ですが、琉球王朝に起源を持つオリジナルで色彩豊かな魅力に溢れる南西諸島文化と歴史があり、このツアーで日本の風土や民族の多様性を多角的に紹介することができました。

国際交流の促進や、海外における日本の文化・芸術の振興には、長期的な展望と活動の継続が重要です。特に海外に所在する文化芸術団体にとって、日本から直接支援を受けることができる日本万国博覧会記念基金の存在は、その

規模や継続性の観点だけでなく、なくてはならない存在となっています。



沖縄舞踊公演(©Maria Baranova)



沖縄舞踊ワークショップ(©Japan Society)

創作オペラ 「ザ・ラストクイーン 朝鮮王朝最後の皇太子妃」新・演出版

事業者：オペラ「ザ・ラストクイーン」実行委員会
 交付確定額：2,000,000円
 実施期間：2022年3月23日
 実施場所：東京都 日本橋劇場

創作オペラ「ザ・ラストクイーン 朝鮮王朝最後の皇太子妃」新・演出版は、日本から朝鮮王朝最後の皇太子の元へ嫁いだ李方子(りまさこ=梨本宮方子1901~1989)妃の半生を史実に基づいて描いた作品です。初演以来ロングランを続けていますが、コロナ禍や緊迫する世界情勢など陰しい状況下での再演となりました。コロナ対策で延期の末、3月23日の公演を実現。Withコロナにもかかわらず、640名の入場者で満席の盛況となりました。

助成金を受けたことによりコロナ感染対策を強化し、危ぶまれた事業実施を3か月延期した開催実現で乗り越えることができました。

当日は著名人や専門家も数多く訪れ、心配された観客動員も満員御礼となり、新しい生活様式の中の芸術文化のあり方、生の舞台ならではの醍醐味を実証する貴重な成果を生み出しました。

日本と韓国の狭間で翻弄されながらも、両国の「和」を求め一生を捧げた方子の生き様に新たな光をあて、混迷する現代を生きる人々に向けて、平和の尊さを伝える事ができました。



写真提供・田月仙(チョン・ウォルソン) / 撮影・菊地健志(2点とも)

ウイズコロナの中でアーティストたちは芸術活動に取り組んでいます。
アーツサポート関西は、みなさまのご支援を彼らに届ける活動を続けています。

ASKが助成した活動のご報告

一般助成
舞台芸術

ナナン・アナント・ウィチャクソ 影絵芝居公演「マハーバーラタ～カルナの一生」

インドネシア・ジャワの伝統的影絵芝居ワヤンの人形遣い、ナナン・アナント・ウィチャクソさんの公演「マハーバーラタ～カルナの一生」が、2022年2月23日に箕面市立文化芸術劇場小ホールで開催されました。

ナナンさんは、幼少よりジャワの伝統的影絵芝居の人形遣いとして活動し、2010年にジョグジャカルタ州王家から伝統芸能の若き継承者として表彰されるなど、インドネシアの国内外で活躍してきました。数年前に日本に拠点を移し、現在は関西を中心に活動を行っています。

今回の公演では、世界三大叙事詩として知られる「マハーバーラタ」の中から、悲しい運命に翻弄されながら勇ましく生きる戦士カルナの物語をとりあげ、大阪のガムラン演奏集団、ダルマ・ブダヤによるオリジナル楽曲の演奏

とともに演じました。

舞台では、ナナンさんが、数十種類におよぶ影絵人形を使い分け、片手で人形をスクリーンの前に差し出しながら、巧みに揺り動かして人物の動きや情感を表現していきます。人物の心理的な描写や複雑なストーリーをそのようにして語るインドネシアの影絵芝居の技法に、伝統の奥深さを垣間見た思いがしました。



スクリーンの前で演技をするナナンさん

日本電通メディアアート
支援寄金助成 美術

三原聡一郎《空気の研究2022》が「KYOTO STEAM 2022」で展示

三原聡一郎さんが、アーツサポート関西「日本電通メディアアート支援寄金」の助成を受けて制作した作品《空気の研究2022》が、京都市京セラ美術館で開催された「KYOTO STEAM 2022 国際アートコンペティション」展(2022年1月29日～2月13日)で展示されました。

このコンペティションは、公募で選ばれたアーティストと企業などをマッチングし、そのコラボレーションを通して生み出されたアート作品によって、京都の新しい「知」と「感性」をグローバルに発信しようとする試みです。

三原さんは今回、mui lab株式会社と組み、同社の製品mui boardを使った体験型の作品を制作しました。mui boardは、表面にボタン類が一切ない、見た目は素朴な木片のように見える情報端末機器で、三原さんはその表面に地球上の膨大な数の都市の気象データなどの情報をリア

ルタイムに表示させる作品《空気の研究2022》を手がけました。

鑑賞者は、円形のベンチに腰をかけ、座ったままベンチを左右に回転させて、mui board上に任意の都市の座標を合わせ、その都市の情報を表示させます。この作品は、インターネットが普及した現代において、ほとんど感じられることのない国と国とを隔てる物理的な広がりや、空気存在として見立てて私たちに想像させるものとなりました。



三原聡一郎《空気の研究2022》

上町台地現代アート創造
支援寄金助成 美術

湯川洋康「アノ ヒダマリニテ」展

アーツサポート関西は、2018年に「上町台地現代アート創造支援寄金」を設け、歴史的にも文化的にも豊かな様相を内包する大阪・上町台地をテーマにした現代アート作品の制作活動を支援してきました。

2020年から2021年にかけてアーティストの湯川洋康さんを支援し、その成果報告として、展覧会「アノ ヒダマリニテ」展が大阪・北加賀谷にある「音ビル」内のTRA-TRAVELギャラリーで開催されました(2022年3月12日～19日)。

この展覧会は、湯川さんと彫刻家の葎村太一さんによる2人展として行われ、古くから人々の暮らしに影響を及ぼしてきた厄災と、宗教が果たしてきた役割との関係性に着目し、映像や平面作品など多様な形態の作品で構成されました。

銅板にエッチングの手法で毛髪の束を思わせる多数の鋭い線を刻み込んだ作品《Flower》は、毛髪のイメージと花の形象を重ね合わせた絵画的な作品で、四天王寺の西門の鳥居の中から発見された人毛の束のイメージとも結びついています。

展覧会は、太古から今に至る極楽浄土を想う無数の人々の祈りに意識を向かわせ、上町台地がその内部に宿す歴史的・文化的な重みに触れさせるような展示となりました。



湯川洋康《Flower》

一般助成
音楽

関西フィルハーモニー管弦楽団「第326回定期演奏会」

関西フィルハーモニー管弦楽団の「第326回定期演奏会」が、2022年3月25日、飯守泰次郎指揮により、大阪・福島にあるザ・シンフォニーホールで行われました。

関西フィルハーモニー管弦楽団は、2020年の創立50周年にむけ、2011年から10年をかけて、指揮者の飯守泰次郎氏とともにブルックナーの全交響曲の演奏に挑みました。このコンサートはその完成を飾るもので、本来2020年に行われる予定でしたが、コロナの影響で延期になっていました。

ブルックナーの交響曲は1番から9番までが良く知られていますが、プログラムは通常ほとんど演奏されることのないブルックナーの交響曲「第00番」と「第0番」の2曲で構成。

「第00番」はブルックナーが初めて手掛けた交響曲で、オーケストレーションの豊穡な小片がいくつもコラージュされた複雑な響きを持ち、「第0番」は一気に駆け抜けていくような躍動感に満ちた若々しい曲で、いずれもブルックナーの他の交響曲に見られる荘厳な曲調とはかなり趣の違う印象で、ブルックナーの別の一面に触れた思いがしました。

演奏からは、指揮者の飯守泰次郎氏およびオーケストラのメンバーたちの熱き想いとほとばしる情熱が伝わってきて、まさに圧巻の演奏会となりました。

今後も、披露される機会の少ない名曲の「発掘」につながる演奏会に挑み続けてもらいたいと思います。



関西フィルハーモニー管弦楽団「第326回定期演奏会」
指揮者：飯守泰次郎 photo: S. Yamamoto

一般助成
美術

荒木優光「思弁的マンネリ解消プロジェクト」の成果発表「トーキングヘッズ(仮)」

サウンドを用いたさまざまな表現活動をしているアーティストの荒木優光さんが、2021年度に取り組んだ「思弁的マンネリ解消プロジェクト」の成果発表が、2022年3月26日、兵庫県豊岡市の城崎温泉にある城崎国際アートセンターで行われました。

「思弁的マンネリ解消プロジェクト」とは、コロナ禍による行動制限を逆に契機としてとらえた荒木さんが、さらなる創造の方法論を模索しようと1年をかけて取り組んできたもの。その成果として、日常の断片をつづったテキストや、サウンドインスタレーション、ステージパフォーマンスなどからなる作品「トーキングヘッズ(仮)」を発表しました。

作品は1日限りの実施でしたが、会場となった城崎国際アートセンター内のさまざまな場所を、ひとつの物語を読み上げるナレーションでつなぎ、観客は場所を移動しながら鑑賞しました。

ステージ上では、身体動作を解析するセンサーを体につけたダンサーによるダンスの動作と、背後に設置された巨大スクリーンにCGで描出されたダンサーのアバターを同時に投影して見せる、ダンス＝映像パフォーマンスが行われました。

荒木さんは、サウンドを作品の主要な要素として用いますが、このプロジェクトでは音響だけにとどまらない空間的な視覚も重要な要素として取り込み、そこから美術および音楽の枠にとどまらない荒木さん独自の創造活動が展開されました。



荒木優光「トーキングヘッズ(仮)」 photo: Kai Maetani

一般助成
美術

野村由香さんがグループ展「transmit program 2022」に参加

現代美術アーティストの野村由香さんが京都のギャラリー@KCUA(アクア)で開催されたグループ展「transmit program 2022」(2022年4月16日～6月26日)に参加し、巨大な泥でできた作品を展示しました。

「transmit program」は、毎年、ギャラリー@KCUAを運営する京都市立芸術大学の卒業生の中で今、最も注目すべきアーティストをピックアップして紹介する展覧会です。野村さんは、人間のサイズをはるかにしのぐ泥でできた巨大な球体の塊を展示しました。

会場に入ると、作品が目の前に立ちはだかり、その存在感に圧倒されます。床には、その巨大な塊を何らかの方法で転がしてきたと思われる痕跡があちらこちらに見えます。

耳をすまし、目をこらして周りを見れば、普段あまり意識

を向けていないもののなかに小さな変化があり、それは時には美しく、また、生の意味につながる大きな流れを感じさせるものとなる……。野村さんは、そうした感覚のよりどころを探る確認作業のようなものが、自分の作品制作なのかもしれないと言います。

床の「汚れ」と、泥の塊の表面のごつごつとした表情が、展示空間に有機的な生命の力を感じさせ、すべてをその懐の内に包み込む自然の摂理の存在に触れたように思いました。



野村由香「池のかめが顔をだして潜る」 photo: 来田猛

大阪文化祭賞 受賞者決定

第1部門 伝統芸能、邦舞、邦楽

大阪文化祭賞 ▶ 上村吉弥

*関西・歌舞伎を愛する会 第29回七月大歌舞伎『双蝶々曲輪日記引窓』

同 奨励賞 ▶ 豊竹靖太夫

*錦秋文楽公演『ひらかな盛衰記【大津宿屋の段】』

第2部門 現代演劇・大衆芸能

大阪文化祭賞 ▶ 曾我廼家文童、井上恵美子

*松竹新喜劇錦秋公演『お家はんと直どん』

同 奨励賞 ▶ 桂 福丸 ▶ 極東退屈道場

*桂 福丸独演会 フクマルまつり

*LG20/21クロニクル

第3部門 洋舞・洋楽

大阪文化祭賞 ▶ 堺シティオペラ、大阪交響楽団

* il Teatro L'alba L'amore “オペラ×オーケストラ” 歌劇『トゥーランドット』

同 奨励賞 ▶ 檜垣智也 ▶ niconomiel

*アークスモニウムリサイタル

*niconomiel vol.2『Synergy』

(敬称略) *は受賞成果

詳しくはホームページへ▶<https://www.osaka-bunka.jp/bunkasai/index.php>



受賞者(前列)と主催者および各部門の審査委員長(後列)

上村吉弥さんら8公演に賞を贈呈

大阪府内で1年間に開催された公演の中から、とくに優れた成果をあげた人や団体を顕彰する大阪文化祭賞(大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会主催)。1963(昭和38)年の創設以来58回目となる今回は、歌舞伎俳優の上村吉弥さん、松竹新喜劇の曾我廼家文童さんと井上恵美子さん、堺シティオペラおよび大阪交響楽団に大阪文化祭賞が贈られ、文楽太夫の豊竹靖太夫さんら3名・2団体に同奨励賞が贈られました。選考にあたっては、関西の著名な芸術家や文化人、ジャーナリストが公演を観て審査。最終審査に残った61公演の中から、独創性・企画・内容・技法などが総合的に優れた8公演が選ばれました。

今年3月29日には、NCB会館(大阪市北区)において各賞の贈呈式が行われました。コロナ禍で2年ぶりの七月大歌舞伎『双蝶々曲輪日記引窓』^{ふたつばらうらひやくる わにつき ひきまど}に出演した上村吉弥さんは、「お幸役は、歌舞伎世話物の三婆の一つに数えられる大役。この役をつけてくださった片岡仁左衛門さんや関係者の方々に感謝するとともに、今後は後輩に芝居の仕方を引き継いでいくのが私の役目」と挨拶。曾我廼家文童さんは「師匠の茂林寺文福(曾我廼家十吾)の戯曲で賞をいただき、万分の一の恩返しができるようで嬉しい。大阪道頓堀で生まれた芝居は、日本人の心の琴線に触れる大阪の宝」と語り、井上恵美子さんは「今、世界は涙の多い時だが、少しでも早く笑いあえる時が戻るようお願いつつ、新喜劇の芸を磨いていきたい」と喜びました。また、2020年度に続く受賞となった堺シティオペラの坂口菜里理事長は、「この賞の重みを感じ、アフターコロナにかけてどのようにして大阪の

文化を支えていくかを心に刻んで精進していきたい」と挨拶。大阪交響楽団の赤穂正秀事務局長は、「南大阪を中心に活動する団体として、大きく羽ばたくきっかけになる」と語りました。

審査の経緯を報告した当協会の崎元利樹理事長は、「コロナ禍の厳しい状況の中、大阪の底力を見せる公演が多く行われた。アフターコロナの大阪を元気にするために、皆様の活躍がエネルギーになる」と受賞者を讃えました。当協会は、大阪の芸術文化活動の奨励および普及を図り、文化振興の機運を醸成することを目的とするとともに、受賞者の一層の励みとなるよう副賞賞金(大阪文化祭賞20万円、同奨励賞5万円)や表彰盾を提供しています。

賞贈呈式の後、堺シティオペラの出演者による受賞記念公演が行われ、カラフ王子のアリア『誰も寝てはならぬ』などが披露されました。



受賞記念公演にて
左から関口康祐さん(ピアノ)、並河寿美さん、水口健次さん



上村吉弥さん



曾我廼家文童さんと井上恵美子さん



堺シティオペラ、大阪交響楽団

イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発掘と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。その中から、いくつかの事業についてご報告します。

日本三大田植祭の筆頭



住吉大社 御田植神事

(国指定重要無形民俗文化財) 2022年6月14日 / 住吉大社

共催：関西・大阪21世紀協会

御田植神事は、摂政11(211)年、神功皇后が住吉大社の鎮座に際して当地に神田を定め、長門国(現在の山口県)から植女(うえめ)たちを召して御田植奉仕をさせたことに由来するといわれています。その後、植女の末裔が旧社領の堺乳守(ちもり)の遊女となり御田植奉仕を続けてきましたが、明治時代に入って御田を含む境内の土地の多くが民間に払い下げられたことで中断。これを憂えた大阪新町廓が御田を買い上げて住吉大社に寄進し、芸妓が植女となって神事廃絶の危機を救いました。昭和54(1979)年に国の重要無形民俗文化財に指定され、日本三大田植祭の筆頭にもあげられています。現在は、関西・大阪21世紀協会 上方文化芸能運営委員会などが大阪の誇るべき伝統文化・神事芸能として支援しています。



神職から早苗を受け取る植女

今年はコロナ禍のため、時間や規模を縮小して開催し、初のライブ配信も行われました。第一本宮において、植女の早苗授受をはじめとする本殿祭に続き、神楽女(かぐらめ)の田舞や御稔女(みとしめ)による神田代舞(みとしろまい)、田植踊り、住吉踊りなどを奉納。観覧の人々は、住吉大社の神事の中でもひととき華やかな古式ゆかしい儀式に見入っていました。



御稔女による「神田代舞」

北前船寄港地の日本遺産を活かす



関西北前船研究交流セミナー 高砂

2022年5月27日 / 高砂市文化保健センター、高砂神社 他

主催：関西北前船研究交流セミナー実行委員会

関西地区のかつての北前船寄港地で日本遺産に認定されている自治体が集まり、その遺産の活用と集客策を探る第3回「関西北前船研究交流セミナー」が兵庫県高砂市で開催されました。

高砂市は、かつて綿花栽培が盛んで上質な綿織物が生産されていた土地であったことから、その綿布を活用し丈夫な船の「帆」を発明した『工業松右衛門』の出身地でもあります。その帆が「北前船」をはじめ近世の舟運に飛躍的な発展をもたらしましたが、その様子は彼を主人公にした作家・玉岡かおる氏の『帆神』などで詳しく描かれています。

また、高砂はおめでたい謡(うたい)として結婚式に欠かせない謡曲『高砂』の舞台となった土地であり、発祥の地でもあります。高砂神社には屋外に能舞台が設えられ、毎秋、盛大に観月能が催されており、今も大切に伝承されています。

今回のセミナーには、実行委員会の構成団体や市民など100名余りが参加し、基調

講演として、同市教育委員会の清水一文氏が、帆布の他、港湾事業にも大きな功績を遺した工業松右衛門の足跡も辿りながら高砂の成り立ちを解説。その後、日本遺産の構成文化財であり今も残る伝統的な街並みを巡り、高砂神社の能舞台では謡曲「高砂」が披露されました。

当協会は毎回、開催市と事務局を務め、企画・構成や運営などを担当しています。



日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2022

人類よ、どこへ行く？
ポストコロナの世界を占う

— Quo vadis, homini? —
(ラテン語:人類よ、どこへ行く?)



昨年開催した日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021の様子

人類社会に甚大な影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症。さまざまな差別意識が顕在化するなか、近代に入って作りあげてきた制度や規範が、改めて問われています。精神医療、医療、哲学、比較文学比較文化など、第一線で活躍する研究者がポストコロナの世界像について語ります。

第1部 コロナ禍のなかを生きる／第2部 コロナ禍の意味するもの／
総合討論「ポストコロナの世界を占う」

登壇者(五十音順・敬称略)

- 齋藤 環 (筑波大学教授)
- 朝野 和典 (大阪健康安全基盤研究所理事長、大阪大学名誉教授)
- 中島 隆博 (東京大学東洋文化研究所教授)
- 山中 由里子 (国立民族学博物館教授)
- 吉田 憲司 (国立民族学博物館長)
- 進行: 島村 一平 (国立民族学博物館准教授)

主催: 国立民族学博物館

共催: 大阪府、公益財団法人 千里文化財団

協力: 公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 ほか

開催日時: 2022年10月29日(土) 13:30~16:30 (13:00開場)

会場: 国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂)

参加方法: 下記①または②よりお選びください。

①会場: 定員200名(要予約) / 無料(要展示観覧券)

②ライブ配信: 国立民族学博物館HPで公開(予約不要)

詳細・受付: https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/36867

お問合せ: 公益財団法人 千里文化財団

TEL 06-6877-8893 (平日9:00~17:00)

*新型コロナウイルス感染症の影響をふまえ、イベントを変更・中止する場合があります。

Arts Support Kansai



ウィズコロナ時代の芸術・文化支援

HEART&ARTは、ウィズコロナ時代の芸術・文化支援のために寄付を集める取り組みです。お寄せいただいたご寄付は、アーティストや文化団体支援に充てられます。みなさまからのご寄付をお待ちしています。寄付には税の優遇措置が適用されます。

HEART&ARTは公益財団法人関西・大阪21世紀協会が行うアーツサポート関西の取り組みとして行われています。

詳しくはアーツサポート関西ホームページへ ▶ <https://artssupport-kansai.or.jp/>



スマホを使って文化芸術支援にご協力を!

「スマホ」でかんたん
少額からできる

ぽちっ と 募金

あなたの想いを
「ぽちっ」と届けよう



2021年3月30日より、株式会社みずほ銀行が提供し、全国90以上の金融機関が参画するスマホ送金・決済アプリ「J-Coin Pay」内で実施している「ぽちっと募金」から、関西・大阪21世紀協会にご寄付いただくことが可能となりました。

当協会は、コロナ禍で経済的な事情を抱える若手アーティストへの支援や活動の場の提供を通じて個と個を結びつけ、さらには個と企業を繋ぎ合わせる取り組みを行っています。こうした取り組みにご賛同いただける方は、「ぽちっと募金」で500円からお気持ちの金額を当協会に寄付していただくことができます。ご寄付は、アーティストへの支援を拡充するための費用として活用させていただきます。

皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。
詳しくは関西・大阪21世紀協会ホームページへ
<https://www.osaka21.or.jp>

「ぽちっと募金」とは

J-Coin Pay (店頭での支払い、送金、入出金をスマホで行えるアプリ)を利用して、復興支援や国際協力、医療・福祉、文化・芸術、スポーツ振興などの支援を行う団体に対し、少額から募金できるサービスです。(J-Coin Payについては ▶ <https://j-coin.jp/>)

関西・大阪21世紀協会賛助会員
入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

- 法人会員1口につき年会費10万円
- 個人会員1口につき年会費1万円

特典

- 1.協会が発行する刊行物の配布
- 2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
- 3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 総務部 (TEL.06-7507-2001)